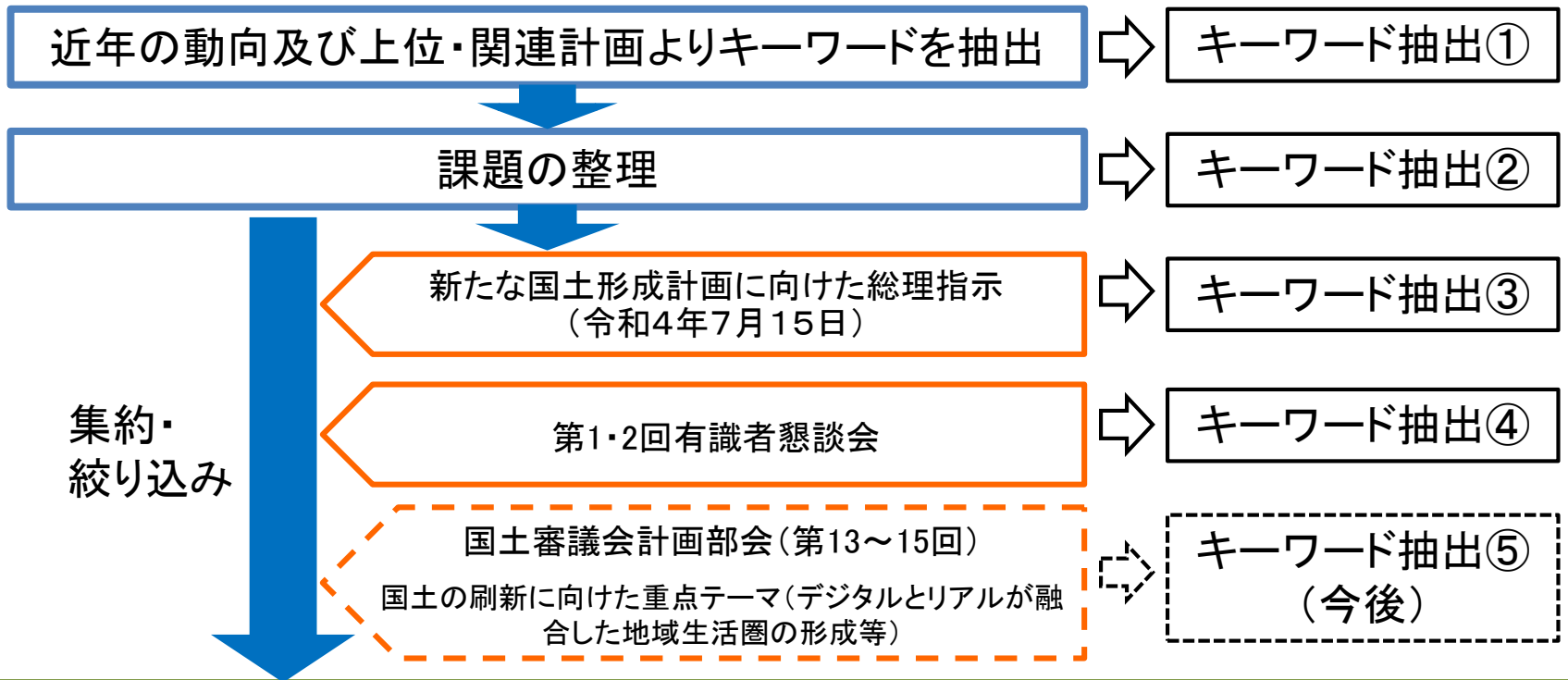


次期広域地方計画の骨子策定にあたっての考え方

【素案】 検討のポイントの整理(検討フロー)



検討のポイント(重視すべき3つの柱)

- デジタルとリアルの融合による地域生活圏の形成
- エネルギー・食料の安定供給に向けた強みの発揮
- 若者・女性・高齢者等あらゆる人材が活躍できる社会づくり

※今後の計画部会及び有識者懇談会の議論により変更となる可能性あり

【素案】 検討のポイントの整理(キーワード抽出)

<p>キーワード抽出① 近年の動向及び上位・関連計画より キーワードを抽出(国・県の計画等)</p>	<p>災害の激甚化・頻発化、人口減少、高齢化、スマート農業、カーボンニュートラル、SDGs、国際競争力、国土の適正管理、GX、DX、官民連携 など</p>
<p>キーワード抽出② 課題の整理</p>	<p>レジリエンスの向上、地域生活圏の形成、女性活躍、民間活力の導入、DXの推進 など</p>
<p>キーワード抽出③ 新たな国土形成計画に向けた総理 指示(令和4年7月15日)</p>	<p>デジタル田園都市国家構想、地域生活圏、産業の再配置、官民連携、GX、DX、分散型国づくり、エネルギー・食料安全保障 など</p>
<p>キーワード抽出④ 第1・2回有識者懇談会</p>	<p>地域生活圏、カーボンニュートラル、東北圏のポテンシャルとしての再生可能エネルギー、デジタルの活用、関係人口の拡大、DXの推進 など</p>

【素案】有識者懇談会意見の反映

- ・東北圏はデジタルに前向きな姿勢であることを示す必要がある。
 - ・震災当時の経験や教訓を生かすまちづくり、そして人づくりの視点が必要である。
 - ・東北圏の新しい技術を取り入れて夢を広げていきたい。
 - ・最先端の技術によりクリエイティブな圏域であることを打ち出したい。
 - ・前向きで未来思考のあるタイトルを掲げてほしい。
 - ・国土計画の重たいイメージがあるが、若い世代も見ることをふまえて軽やかな空気感を入れてほしい。
 - ・東日本大震災からの復興が生み出した「未来に繋がる兆し」を見つめ直す必要がある。
-
- ・エネルギーと食料の自給自足により、自立した圏域をめざすことを打ち出す必要がある。
 - ・東北圏は日本最大のエネルギーポテンシャルエリアであることから、新しいエネルギーの産出と循環により日本全体を牽引する圏域をめざすべきである。
-
- ・若者や女性の活躍をサポートする体制を整えることが必要である。
 - ・閉鎖的なイメージを払拭し、若者や女性に選ばれる魅力的な圏域を目指すべきである。
 - ・多様な働き方や生き方を実現できる「開かれた東北」をめざす必要がある。
 - ・中高生に夢を与えられるような計画にしていきたい。
 - ・人口減少を前提としながら、東北圏としての将来像を今まで以上に真剣に考えることが必要である。
-
- ・原子力災害を受けた東北圏だからこそ、日本のカーボンニュートラルを担う圏域をめざす必要がある。
 - ・カーボンニュートラルの実現先行エリアとして、取組を推進する必要がある。

有識者意見の要点

- 新しい技術と震災の経験でクリエイティブな東北圏の未来を切り拓くべきである
- エネルギー・食料供給ポテンシャルを活かして自立した圏域をめざすべきである
- 若者・女性の挑戦を支え、多様な生き方を実現できる圏域をめざすべきである
- 原子力災害を経験した東北圏だからこそカーボンニュートラルを先導すべきである

共通する課題解決の原理

○国土形成計画(全国計画)中間取りまとめ(令和4年7月15日)について

・「第3章 共通して取り入れるべき課題解決の原理」に、4つの原理が示されており、それぞれを独立して取り入れてゆける性質ではなく、あらゆる項目に横断的に組み込まれる項目としており、東北圏においても同様に**横断的に組み込む方針**とする。

①民の力を最大限発揮する官民共創 ②デジタルの徹底活用 ③生活者・事業者の利便の最適化 ④分野の垣根を越えること

【素案】基本方針の検討

検討のポイント
(重視すべき3つの柱)

有識者意見の要点

【素案の考え方】

- 現行計画の体系を継承
- 東北圏の強みを活かした明るい未来を表現する

現行計画

震災からの復興とともに世界に発信する防災先進圏域の実現

人と自然が共生し地球に優しく生命力あふれる空間の形成

豊かな自然と地域資源を活かし持続的な成長を実現する「東北につぼみ自立経済圏」の形成

一人ひとりの自立意識と交流・協働で創る東北圏

素案

エネルギー・食料の自給力と産業の競争力を通じた日本全体を牽引する東北圏の形成

豊かな自然と共生し、グリーンな国土づくりに挑戦する東北圏の形成

震災の経験を活かし、強さとしなやかさを世界に発信する防災先進圏域の形成

女性・若者が自己実現でき地方の先導モデルとなる東北圏の形成

戦略的目標の考え方

【素案】基本方針を踏まえた表現の更新(現行計画→素案)

現行計画

(復興・防災・減災)

I 東日本大震災からの被災地の復興

II 災害に強い防災先進圏域の実現

(自然・環境)

III 恵み豊かな自然と共生する環境先進圏域の実現

(暮らし)

IV 雪にも強く人に優しく暮らしやすい魅力的な対流促進型の地方の創生

(産業)

V 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現

(国際連携)

VI 交流・連携機能の強化による世界と対流する圏域の実現

(人材・共助)

VII 地域を支える人材の育成と共助による住民主導の地域運営の実現

震災からの復興・再生を原動力として、その先の自立的発展を見据えたポジティブな表現

人口減少社会における国土管理の課題を受け止めた表現

東北圏ならではの「雪国」の魅力とポストコロナの新しい社会を意識した表現

今後重視すべき官民連携を意識した「共創」を取り入れ「国際競争力」を強調

東北圏の優位性を活かしてダイレクトに世界につながることを表現

若者・女性を含めた多様な人材が活躍できる社会を表現

素案

(復興・防災・減災)

復興・再生の強い力を未来につなげる社会の実現

(自然・環境)

美しい国土の保全と恵みある豊かな自然の継承

(暮らし)

魅力的な「新しい雪国暮らし」の実現

(産業)

豊かな地域資源の活用と先端産業の挑戦による国際競争力の強化

(国際連携)

交流・連携強化による世界とつながるネットワークの実現

(人材・共助)

誰もがチャレンジできる自立的な地域運営の実現

主要な施策の考え方

○基本方針・戦略的目標を整理した共通事項を踏まえた主要な施策の整理(キーワード抽出等)

- ・重要な項目は分かりやすくとりまとめ(委員の発言)を行い、同様な内容である主要な施策については集約する。
- ・計画の横断的な分野(横串)である「地域生活圏」「デジタル」「官民連携」については、施策名には記載しない。(本文対応)

現行

素案

